学校番号	３０１

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学 A	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	改訂版　NEXT 数学 A(数研出版)						
副教材等	改訂版　CONNECT　数学 I+A（数研出版） 改訂版　チャート式　基礎からの数学 I+A（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

予習→授業→復習のサイクルの中で，内容についてただ覚えるのでなく，なぜそうなるのかを自ら考えていく過程を大切にしてください。課題を解決する方法を，学んだ知識や経験を基に自ら作り出してください。

復習の家庭学習として問題集を活用します。まずは、解答を見ないで自分で考えてみてください。そして解答を参照し，そこでもただ解法を覚えるのでなく，なぜそうするのかを考えてみてください。それで初めて数学的に問題を解決する力がつきます。

問題集用のノートを用意し，答えだけでなく，途中の式，説明など結論に至る過程を書くようにしてください。それにより，数学的思考力および表現力が身につきます。なお，家庭学習の課題は定期的に提出を求めます。

2　学習の到達目標

図形の性質，場合の数と確率について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

a：知識及び技能

図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

b：思考力、判断力、表現力等

図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。

c：学びに向かう力、人間性等

数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	・図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する力を身に付けている。 ・不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身に付けている。 ・数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	第２章 図　形 の　性 質	第1節　平面図形 1　三角形の角の二等分線と辺の比 2　三角形の外心・内心・重心 3　チェバの定理・メネラウスの定理 4　円に内接する四角形 5　円と直線 6　２つの円 7　作図 第2節　空間図形 8　直線と平面 9　多面体	a:三角形に関する基本的な性質について理解する。 円に関する基本的な性質について理解する。 空間図形に関する基本的な性質について理解する。 b:図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し，図形の新たな性質を見いだし，その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして，図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。 c:事象を図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを利用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようと	確認 テスト 定期 考査	ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ課題 定期 考査	振り返り ｼｰﾄ 問題集 課題 ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ課題

			している。			
二学期	第１章 場　合の数と確率	準備 集合 第1節 場合の数 1 集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列 4 組合せ 第2節 確率とその基本性 質 5 事象と確率 6 確率の基本性質 7 独立な試行と確率 8 条件付き確率 9 期待値	a:集合と命題に関する基本的な概念を理解している。集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則，積の法則などの数え上げの原則について理解している。具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し，順列の総数や組合せの総数を求めることができる。確率の意味や基本的な法則についての理解を深め，それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。独立な試行の意味を理解し，独立な試行の確率を求めることができる。条件付き確率の意味を理解し，簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。 b:集合の考えを用いて論理的に考察し，簡単な命題を証明することができる。事象の構造などに着目し，場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。確率の性質や法則に着目し，確率を求める方法を多面的に考察することができる。確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり，期待値を意思決定に活用したりすることができる。 c:事象を集合と論証および場合の数と確率の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを利用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。事象を集合と論証および場合の数と確率の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを利用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めた	確認テスト 定期考査	ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ課題 定期考査	振り返りシート 問題集課題 ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ課題

			り，評価・改善したりしようとしている。			
三学期	第3章 数学と人間の活動	第1節　整数の性質 1　約数と倍数 2　素数と素因数分解 3　最大公約数･最小公倍数 4　整数の割り算 5　ユークリッドの互除法 6　1次不定方程式 7　n進法	a:約数･倍数の定義を理解し，自然数の約数･倍数を求めたり，倍数であることを証明したりできる。自然数を素因数分解できる。素因数分解を利用して，自然数の正の約数やその個数を求めることができる。最大公約数と最小公倍数の定義を理解し，約数や倍数を書き並べる方法で求めることができる。素因数分解を利用して最大公約数や最小公倍数を求めることができる。互いに素の定義を理解している。整数を正の整数で割る割り算の定義を正確に理解し，商と余りを求めることができる。2 つの整数をある数で割った余りからその和，差などの余りを求めることができる。互除法を用いて，最大公約数を求めることができる。互除法を用いて，1 次不定方程式の解を 1 つ求めることができる。1 次不定方程式の解をすべて求めることができる。進法の仕組みを理解し，10 進法の数を n 進法で，n 進法の数を 10 進法で表すことができる。n 進法の小数を 10 進法で表すことができる。 b:平方根を含む式が自然数となるような条件について考察し，素因数分解を用いてそれを解決できる。最小公倍数がわかっているとき，もとの整数を求める方法について，その理由を正しく理解した上で求めることができる。互いに素である整数の性質について，それが成り立つ理由を，素因数に着目して説明できる。最大公約数･最小公倍数の性質を用いて，最大公約数と最小公倍数がわかっているとき，もとの 2 数を求めることができる。余りによって整数を分類して証明する仕組みを理解し，正しく証明ができる。互いに素である a，b に対して ax+by=c の解が存在する	確認テスト 定期考査	ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ課題 定期考査	振り返りシート 問題集課題 ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ課題

			ことを理解し，a，b が互いに素でない場合に対して ax+by=c の解について考察できる。1 次不定方程式を活用して，余りの問題を解決できる。2 で割った余りを用いて 10 進法の数を 2 進法で表す方法について，それが成り立つ理由を説明できる。 c：様々な数の倍数の判定法について，それが成り立つ理由を考察しようとしたり，新たな倍数の判定法を作ってみようとしたりする態度がある。素因数分解を利用して最大公約数，最小公倍数を求める方法について，それらを比較し，類似点や相違点を見出そうとする。連続する 2 つの整数の積が 2 の倍数であることについて，それが成り立つ理由を理解し，連続する 3 つの整数，連続する m 個の整数の積の性質を予想したり証明したりしようとする。整数を具体的な正の整数で割った余りの性質から，一般の正の整数で割った余りの性質を予想したり証明したりしようとする。 互除法を，長方形から正方形を切り取る操作と対応させて理解しようとする。1 次不定方程式 ax+by=0 とその解について，座標平面上の直線とそれが通る格子点と見て，多面的に理解を深めようとする。 n 進法の仕組みから，慣れ親しんだ 10 進法の仕組みについて，改めて包括的に理解しようとする。			

※　表中の観点について　a：知識・技能　b：思考・判断・表現　c：主体的に学習に取り組む態度